「おもいで栞」を作ろう（実践編）

自己紹介版「おもいで栞」を作ったら、いよいよ本番です

1 準備をしよう

インタビューは緊張するもの。相手も緊張しています。

少しでも気持ちよく話をしてもらえるようにちょこっと事前準備を。

筆記用具　**メモ帳**

会話すべてを記録することは難しいでしょう。

特に認知症の方には、集中力が切れてしまわないように目を常に見て話すことがポイントです。

記録することだけに夢中になると、会話が続かなくなってしまいます。

メモ帳に会話の中のキーワード（例えば固有名詞や数字など）を大きく書いて記録していくイメージで。

カメラ　**自己紹介用「おもいで栞」**　**話を引き出すきっかけを作るもの**

話を聴くときには、多くの引き出しをもっておきたいものです。

認知症の方は、具体的なイメージをもてると話しやすくなります。

きっかけとなる品物や思い出のある写真を探していただいたり、いくつか質問を考えておくこと。

事前に準備できないときは、お会いしたときにグルリとあたりを見渡して、

話題となりそうなものに目を光らせましょう。

2 話を聴こう

わたくし、真田宏子の今まで

昭和四年大阪市住吉区田辺で、三番目の子供として誕生しました。姉、兄に妹の四人の兄妹でした。父は天王寺中学、慶高、東大と進み、卒業後官とか頑張り、子供の頃に母を亡くしました。その結果、兄は父の遺志を引き継ぎ、他に男である兄へは大いに期待をし養育しました。父が行った阿倍野高等学校に進み、卒業後官とか頑張り、わたくしも姉が行った阿倍野高等学校に勤務することが出来ました。その後も、小学校教師になり、東京文京区の算数小学校で勤務していました。結婚後はお互いに仕事をかえました。わたくしは、東京文京区の算数小学校で勤務していました。

教員一筋で生涯をまっとうしました。共に東京、日野自動車の社員であり、共に稲田大学理工系出身で日野自動車に勤務していました。

共は稲田大学理工系出身で日野自動車に勤務していました。

共は東京、日野自動車の社員であり、共に稲田大学理工系出身で日野自動車に勤務していました。

共は稲田大学理工系出身で日野自動車に勤務していました。

共は稲田大学理工系出身で日野自動車に勤務していました。

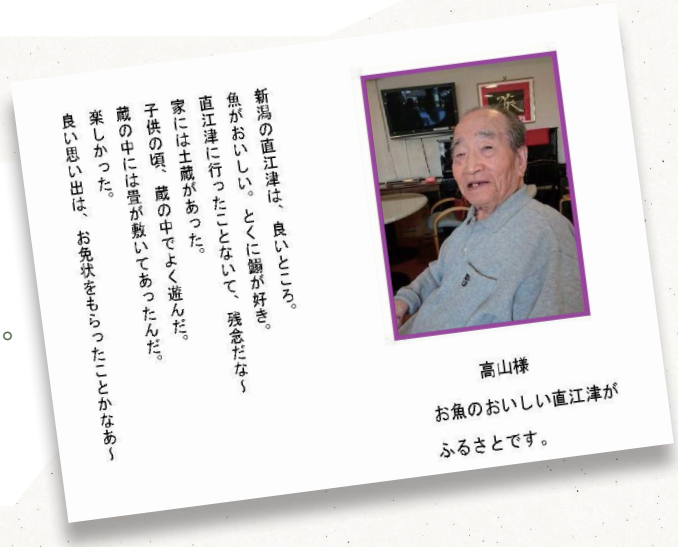
共は

3 写真を撮ろう

相手のどんな雰囲気を伝えたいですか。
どんな写真があったら、これから作る「おもいで栞」が充実しそうですか。
撮られるのが嫌な方には無理強いしないこと。

4 まとめよう

栞に入れたいエピソードがたくさんあっても、
読みやすさを考え、文と写真を入れていきましょう。
この１枚の「おもいで栞」が積み重なり、
話し手の「自分史」になるかもしれません。



5 出来上がった「おもいで栞」を相手と一緒にみよう

出来上がった栞を一緒にみて、
「そうそうそうだった」「ここが違う」などと話しましょう。
話が広がり、また違うエピソードを聞くことができるかも。

その記憶をキャッチしたのはあなた

認知症の方の心のポケットにしまわれた記憶は、誰がどうつむぐのかによって、それぞれ異なってきます。
1人の人にインタビューをしても、聞き手が違えば決して同じ「おもいで栞」にはなりません。
それが、この取り組みの魅力ではないでしょうか。